

## 団研の魅力—これまでの経験が役立っていること—

竹下 欣宏（前橋支部）

現在、私は栃木県立博物館で非常勤ながらも夢でもあった学芸員として働いています。そもそも、私が学芸員になりたいと思うようになったのは、直接ではないかもしれませんが地団研に出会ったことに大きな要因があるように思います。

私と地団研の出会いは信州大学 1 年の春で、地質科学科の先輩たちによる地団研のガイダンスに誘われたのがはじまりです。それから約 12 年、団体研究（以下：団研と略す）では主に松本盆地団体研究グループと八ヶ岳団体研究グループに、ちょっと団研とは違いますが野尻湖発掘調査団にも参加して



男体火山での野外観察会の様子。はじめて目にする火山噴出物をみんな熱心に観察していました。

きました。特に松本盆地団研で調査していた御岳火山は、とても美しく学術的にも魅力あるフィールドで、博士論文も御岳火山の層序を中心にまとめたくらいにはまってしまいました。そのくらい団研は私に多大な影響を及ぼしたわけで、思い出話を始めたらきりがありませんが、現在でも役立っている経験もたくさんあるので少しだけ当時のことを紹介します。

学部生だった頃のことを振り返ると、とにかく団研に参加してフィールドに出かけるのが楽しくて仕方がなかったことを思い出します。地質学のことはよくわからないけど、先輩たちに連れられて沢を歩き、露頭をよじ登ることだけでも私にはとても新鮮でした。また、団研の調査では宿舎として公民館などを使わせていただくので、朝、昼、晩ご飯は自分たちで用意します。この食当が思いのほか楽しいのです。みんなで協力して料理を作って、その日あったいろいろなことを話しながら、みんなで食べる。このような普段ではなかなか体験することができない楽しい時間も、今でも私が団研に参加し続けている理由の 1 つです。

そんな楽しい調査の中で「初心者」だった私は、経験豊かな先輩たちから沢の歩き方や露頭での足場の切り方、さらには柱状図やスケッチなど地層の記録のとり方まで地質調査の「いろは」を教わりました。これらの経験は、卒業研究で一人で野外調査をしなければならなくなったときにとても役に立つものでした。先にも少し触れましたが卒業研究から博士課程まで、私の対象とした主な地域は古期御岳火山（御岳は 2 つの異なる時期の火山で形成されていて、そのうちの古い方の火山）で、古い火山なので沢が深くてかなり険しいフィールドでした。団研に参加し始めた野外調査初心者だったころ、急な斜面の露頭に登って肝を冷やしていたことを思うと、そんな険しいフィールドを相手に博士論文までまとめることが出来たのは、団研に参加することにより、知らず知らずのうちに鍛えられ、沢や崖の登り方が上達していたおかげでしょう。また、多くの人たちといろいろな議論をしながらフィールドを歩くことができたことは、今でも私にとって大きな原動力になっています。現地で議論をすることで、地層の観察により過去のさまざまな事象を解き明かすことの出来る「面白さ」、「大切さ」といった地質学の醍醐味を肌で感じることができました。この醍醐味を知ったということが、今にして思うと学芸員になりたいと考えるようになった第一歩だったのだと思います。

団研で多くの人と知り合いになることができたことも、様々な研究・普及活動をするうえで大きな糧になっています。最近では群馬県の高校の先生である S さんと連携して、文科省の科学教育支援事業であるサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）事業を利用して、栃木県の男体火山や足尾鉾山跡地で高校生を対象とした講義と野外観察会を行うことができました。こんなふうに、年や専門の違う多くの人たちと交流を持つことができ、やる気しだいで自分を磨き活動の輪を広げていくことができる、そんな条件が整っていることが団研の最大の魅力なのだと思います。